

平成30年度 文書館評価

評価項目1 文書館の利用 県民の共有財産である文書館の収蔵資料の利用, 活用を図ります。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	(29年度)						
1 登録者数	2,061	2,223	(745)	—			<p>◆30年度は、前年度から実施している大規模改修工事のため、4月から10月は仮事務所での暫定開館、11月から3月は31年度当初のリニューアル・オープンに向けた収蔵資料の再配架などの準備のため、臨時休館となります。このため、29年度と同様、利用者の方々に混乱のないよう周知に努めるとともに、円滑な利用サービスに努める必要があります。</p> <p>◆また、31年度当初のリニューアル・オープン時の利用水準が大規模改修工事前の水準を下回ることなく、さらに上回ることで活動が必要となります。具体的には、アウトリーチ手法による普及事業、ホームページをはじめとした様々な手法を活用した魅力発信、リニューアル・オープン後の収蔵資料の公開・活用の拡大を図るための整理・再配架等に取組む必要があります。</p> <p>◇大規模改修工事の影響で、年度前半は仮事務所における暫定開館、年度後半は臨時休館となることから、29年度と同様、評価項目1については目標値の設定は行いません。閲覧可能な期間が暫定開館中の6か月間に限られる上に、本来の閲覧環境ではないために資料にも負担をかけることから、閲覧者数や利用点数が多いことが単純に良い評価とはならないからです。</p> <p>◇したがって、30年度についても、数値目標を設けるのではなく、ひとつひとつの閲覧希望に対して安全・確実に応えていくことを目標とするとともに、リニューアル・オープン後の積極的な利用を呼び掛けるため、文書館の利用方法や収蔵資料への関心を高めるためのPRを続けていく必要があります。</p>	<p>○暫定開館及び臨時休館の期間や暫定開館中における利用方法の周知を図り、照会や利用希望に丁寧に対応します。</p> <p>○あわせて、大規模改修工事の進捗状況や31年度当初のリニューアル・オープンに向けた準備状況及びその間の文書館の活動業務などを、ホームページをはじめとした様々な手段で発信していきます。</p> <p>○展示や講座・講習会などの普及事業は、他の博物館や図書館等と連携したアウトリーチ手法により積極的に実施します。これにより、リニューアル・オープン後の利用につなげていけるよう、文書館資料の魅力を広くアピールします。</p> <p>○リニューアル・オープン後の利用拡大につなげるよう、収蔵資料の整理に取り組めます。</p>	
2 閲覧者数	4,629	4,532	(1,820)	—					
3 利用点数	35,587	42,263	(23,662)	—					
4 レファレンス件数	670	223	(205)	—					
5 検索システムアクセス件数	100,912	95,419	(77,030)	—					
参考) 利用者数	20,169	16,936	(8,960)	—					
参考) ホームページアクセス数	105,185	89,085	(99,206)	—					

評価項目2 行政文書の公開 歴史的・文化的に価値ある行政文書を収集・整理し公開することにより、県政の記憶装置として県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度						
行政文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	170,186	177,940	185,514	186,000			<p>◆リニューアル・オープン後における、行政文書の円滑な受入体制を構築するための協議を関係各課と実施する必要があります。</p> <p>◆臨時休館に伴う文書閲覧等について、適切に周知する必要があります。</p> <p>◆県職員の公文書や文書管理制度等に対する意識啓発を図ります。</p> <p>◇30年度は、前半が仮事務所での暫定開館、後半が臨時休館となる制約の中で整理・公開できる点数を測定項目としました。</p> <p>◇例年に比べ収集点数が大幅に少なくなることが見込まれるため、約500点としました。</p>	<p>○受入を停止していた行政文書について、リニューアル・オープン後の受入体制を構築するとともに、関係各課との協議をあわせて行っていきます。</p> <p>○東日本大震災関連などの歴史的資料については、文書が廃棄される前に通知を行い、適宜収集できる体制を整えます。</p> <p>○継続して県職員へ歴史的に重要な公文書や文書管理制度における歴史公文書等に対する意識啓発を図ります。</p>	

評価項目3 古文書の公開 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値ある古文書の整理・公開を促進して県民共有の財産とし、県民の要望に応えます。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27 年度	28 年度	29 年度						
古文書の公開(予定)点数 (整理済点数)	421,617	428,866	434,366	446,366			<p>◆30年度も、大規模改修工事の影響で整理作業が大きく制限されますが、収蔵資料を預託している外部保管庫からのデリバリーを利用し、計画的に整理作業を進めます。</p> <p>◆29年度の実績をもとに、他機関所蔵の本県関係古文書写真版の目録化作業の計画を立て、整理作業を進めます。</p> <p>◇30年度も大規模改修工事のため、暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇前年度から取り組んでいる、未着手であった他機関所蔵の本県関係古文書写真版からの目録化作業を継続し、これらも含めた整理点数を目標値としました。</p>	<p>○熊谷市青木家文書の整理(7000点)と目録公開を行います。</p> <p>○他機関所蔵の本県関係古文書写真版の約5000点の目録化作業を進め、順次データベースに登録してリニューアル・オープン後の利便性の向上に努めます。</p>	
報道写真の公開(予定)点数 (整理済点数)	107,417	136,786	139,042	149,885			<p>◆30年度も、大規模改修工事の影響で整理作業が大きく制限されますが、収蔵資料を預託している外部保管庫からのデリバリーを利用し、計画的に整理作業を進めます。</p> <p>◇30年度も大規模改修工事のため、暫定開館ないし休館となり新たな公開はできないため、31年度のリニューアル・オープン後に公開できるよう整理を済ませておく点数を測定項目としました。</p> <p>◇30年度も前年度と同様に制約の多い中での整理作業となるため、目標点数は例年の50%程度に設定しました。</p>	<p>○昭和47年の報道写真の公開に向け、整理作業を進めます。</p> <p>○31年度のリニューアル・オープンに向け、報道写真の公開手順や公開基準の再整備を図ります。</p>	

評価項目4 地図資料の公開 埼玉県に関わる地図資料を収集して、整理、公開を進め県民共有の財産として公開します。

測定項目	過年度実績 (公開累積数で表示)			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27 年度	28 年度	29 年度						
地図資料の公開(予定)点数 (整理済点数)	76,929	77,966	79,234	80,000			<p>◆大規模改修工事終了後、外部保管庫からの資料搬入が始まる11月に間に合うよう、例年より早い時期に県庁各課と各市町村に対し、地図の収集を依頼します。</p> <p>◆大規模改修工事のため、地図の整理期間が例年の半分の6か月間となってしまうので、集中的・効率的な整理に取り組めます。</p> <p>◇30年度は、前半が仮事務所での暫定開館、後半が臨時休館となる制約の中で、整理できる点数として、目標値を約760点としました。</p>	<p>○例年より早い時期に県庁各課と各市町村に対し、地図の収集を依頼します。</p> <p>○6か月間の期間で、集中的・効率的な整理に取り組めます。</p>	

評価項目5 史料叢書の刊行及び県史編さん資料の整理公開 郷土埼玉に関する貴重な史料を刊行するとともに県史編さん資料を整理し公開します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 史料叢書の刊行	第18巻 埼玉県 布達集 二	第19巻 埼玉県 布達集 三	第20巻 埼玉県 布達集 四	第22巻 小室家文書 一			◆大規模改修工事にもとづき第22巻「小室家文書」を編集・刊行するとともに、31年度以降刊行予定巻の編集を進めます。 ◇第22巻の円滑な刊行を目標としました。	○第22巻「小室家文書」の円滑な刊行を行います。 ○第21巻以降の刊行計画に基づき、31年度以降刊行予定の第21巻「戦後報道写真」及び「小室家文書」続巻の調査・編集作業を進めます。 ○大規模改修工事のため外部保管庫等に預託した県史編さん資料を事故なく再搬入し、整理・点検のうえ新たな配架を完了させ31年度の再開に備えます。	
2 県史編さん資料(写真資料等)の公開(予定)点数(整理済点数)(累積数で表示)	18,479	21,507	24,170	—			◆大規模改修工事により、県史編さん資料は外部保管庫等に預託してあるため、公開のための整理は休止せざるを得ません。そのため、年度後半に資料を事故なく再搬入し、整理・点検のうえ新たな配架を完了させることに重点的に取り組みます。 ◇上記のとおり、公開のための整理は休止せざるを得ず目標値を設定できませんが、再開後の保存利用等を見据えた配架及び整理を行い、31年度の再開に備えます。		

評価項目6 収蔵資料の保存 県民共有の財産である古文書・行政文書などの資料を後世に伝えていくため、良好な状態で保存し、収蔵資料の劣化を防止します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 古文書：修復(枚)	116	114	(34)	—			◆30年度も大規模改修工事の影響で修復作業が制約を受けますが、引き続き、県立常盤高校と連携を図り、活動の維持・継続に努めます。 ◆報道写真のデジタル画像公開について、サービス向上の視点に立ち、提供写真のテーマや枚数などを彩の国ビジュアルプラザと協議し、提供を進めます。 ◆報道写真以外の古文書デジタル画像についても、当館ホームページで古文書講座のテキストを中心に公開を進めます。 ◇大規模改修工事の影響で、前年度と同様、修復枚数の測定項目に対しては目標の数値設定を行えませんが、限られた回数でも継続してまいります。 ◇彩の国ビジュアルプラザとの連携による報道写真のデジタル画像の公開は、大規模改修工事中においても計画的に実施できることから、例年並みの目標値としています。	○前年度と同様に、修復活動は県立常盤高等学校の余裕教室を活用して行います。 ○大規模改修工事の影響で活動が大きく制約されるため、ボランティアの新規募集は行いませんが、前年度と同様、技術の維持向上のため研修等を実施します。	
2 古文書：報道写真デジタル化(点)	796 (累計)	826 (累計)	856 (累計)	886					
3 行政文書：重要文化財指定文書の複製化(冊)(コマ)	151 (71,202 コマ)	127 (53,958 コマ)	(10) (4,190 コマ)	—			◆修理の対象となる重要文化財指定文書の精査に努めた上で、文化財修復実績が豊富な専門業者のもとで修復・撮影を行って複製化を進め、より効率的に保存と利用の調整を図ります。また前年度の経験を活かし、より安全な修復の進行に努めます。 ◇複製化の対象となる簿冊の状態によって数値が変動するため、目標値の設定は行いません。	○マイクロフィルム撮影に耐えうる範囲での軽微な修理対象となる重要文化財指定文書を選定した上で、文化財修復実績が豊富な専門業者のもとで修復・撮影を行って複製化を進め、効率的に保存と利用の調整を図ります。	

評価項目7 文書館の普及、連携、協力活動 行政文書・古文書・地図等の収蔵資料を活用した講座・講習会及び子ども体験事業を通じて、県民の学習意欲と理解を深め、文書館の利用を促します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
1 講座、普及事業	回数	32	32	31	27		<p>◆平成30年度は、大規模改修工事により館内の講座室等が使用不能となるため、この期間の講座や普及事業については、外部機関で実施することで、サービス水準の維持に努めます。</p> <p>◆子供事業では、埼玉県ならではの教材を取り入れるとともに、体験内容の種類を増やして実施します。</p> <p>◆各種古文書講座や子供体験教室等の応募方法に電子申請を導入し、サービスの向上や事務処理の効率化に努めます。</p> <p>◆古文書の修補ボランティアについても、館内での作業が不可能なため、県立常盤高等学校の協力のもと、活動の継続に努めます。</p> <p>◇学校連携事業や子供事業は、30年度も大規模改修工事のため館内で開催ができないため、開催回数・参加人数とも目標値を下げざるを得ません。しかしながら、他機関と連携したり、外部からの依頼にも可能な限り応じたりしながら、積極的にアウトリーチに努めます。</p>	<p>○30年度も大規模改修工事のため館内施設が使用できませんが、講座や各種事業は他機関や県立学校等と連携して開催することで、できる限りサービス水準を維持します。</p> <p>○学校連携事業については、外部会場での教員研修等の実施のほか、出前授業にも積極的に取り組みます。</p> <p>○子供事業では、体験教室の種類を前年度より3種類増やし、教材にも細川紙を取り入れ、より多様な体験教室を展開します。</p> <p>○古文書補修も、前年度に引き続き、県立常盤高等学校の余裕教室を活用しながら修復ボランティアにより実施します。</p> <p>○8月の子供体験教室(巻物・和本づくり)において、県立常盤高等学校の学生ボランティアを募集し、県立学校との連携を積極的に図ります。事前講習会を開催し、教室当日は、高校生ボランティアが中心となって子供たちの活動をサポートします。</p>	
	人数	1,293	1,310	1,117	1,425				
2 学校との連携事業	回数	44	75	19	40				
	人数	1,219	1,545	900	1,000				
3 ボランティア活動古文書補修	回数	40	40	29	25				
	延人数	331	297	212	200				
4 ボランティア活動子供事業	回数	12	13	10	10				
	延人数	105	35	24	35				

評価項目8 展示 収蔵資料を利用・活用してもらう導入部分として常設展示、コーナー展示をそれぞれ開催します。

測定項目	過年度実績			目標値A	実績値B	達成率 B/A	◆前年度からの課題 その他 ◇目標値の設定理由	30年度の取組	次年度以降に向けた改善点
	27年度	28年度	29年度	30年度					
年間観覧者数(人)	10,283	7,216	—	—			<p>◆リニューアル・オープンに向けて一層の周知を図るため、引き続き、歴史と民俗の博物館常設展示室での展示を継続するとともに、同館と共催で文書館所蔵資料を中心とした企画展を開催し、文書館と所蔵資料の魅力発信に努めます。同時に、会場での展示解説や展示テーマに関連した講座も行い、来館者の展示に対する理解の一層の深化に努めます。</p> <p>◇歴史と民俗の博物館での展示となり、独自の観覧者数計測が不可能なため、目標値の設定は行いません。</p>	<p>○大規模改修工事のため文書館の施設が利用できないことから、歴史と民俗の博物館と共催で文書館所蔵資料を中心とした企画展と5回の「埼玉の人物」展示を開催します。また、会場での展示解説や展示テーマに関連した講座も実施します。</p> <p>○県庁渡り廊下やおけがわマインを会場に、「明治150年」にちなんだパネル展を開催します。</p>	